

は し が き

特殊教育学習指導の手引き「学習指導案の作り方」をお届けします。

心身に障害をもつ児童生徒の障害の状態は、重度化、重複化及び多様化の傾向が著しくなっています。このような現状の中で、障害児教育に携わる教師は、これらの子供たちをどのように援助していけばよいのか、実践の在り方が課題になっています。

学校教育では、その目指す教育のほとんどは授業という形態で行われています。よく「授業は教師の命である」とか「教師は授業で勝負する」などと言われています。教師の仕事は授業そのものであると言えます。

授業のよしあしが子供たちの成長に大きな影響を与えることを考えたとき、教師はよい授業案の作成を目指さねばなりません。

よい授業を行うためには、どんなねらいで、何をどのように教えるかという学習指導案が事前に用意されていなければなりません。とりわけ障害児教育では児童生徒の実態を的確に把握し、個人差に応じた学習指導を行わねばなりません。

そこで、どのようにすれば、よい学習指導案を作ることができるのか、研究協力員の方々と考えてみました。

授業の目的、形態、指導方法によって学習指導案の形式はいろいろ考えられますが、ここでは障害児教育における学習指導案の基本的な作り方について述べ、研究協力員の方々から、自校の児童生徒の実態に即した学習指導案を作成していただき、作成の観点や留意点について述べてもらいました。

障害児教育における授業案の作成に参考となれば幸いです。

昭和63年3月31日

新潟県立教育センター

所 長 長谷川 武 雄